

しりべしツーリズムサポートニュース



Vol.94

平成 27 年 12 月

～「第4回しりべし塾」「しりべし広域観光セミナー」報告～



11月25日後志総合振興局講堂にて13時から「しりべし

塾」は最終回として岩宇4町村の観光資源の再考、ルート提案をパンフレット化するワークショップの報告がされ、これまでイベント開催だけに終わっていた担当者にとっても、地域を見つめ直す良い機会であったと話されていました。「広域観光セミナー」ではひがし北海道観光事業開発協議会、事務局長の野竹鉄蔵氏が「これからのひがし北海道における連携」として新幹線開業をも見据えた道東の取り組みや考えを講演。30年間旅行業に携わっていたということで、業界風な分析、展開イメージ、分量は圧巻でした。新幹線、高速道路がらみで考えれば、後志は時間と距離でも恵まれているな～と改めて実感。「ひがし北海道」はその先の北海道、その次の北海道と雄大な自然、北海道原風景を最強な資源として様々なルートや連携を実施しています。沖縄を例にとり、那覇の魅力、乗り継ぎ、数時間掛けても行く石垣島の魅力はちゃんと役割分担がされていることを例えながら、近い北海道（まちあるきの魅力）遠い北海道（大自然と食の魅力）として沖縄二元論を超える多様性、価値性を北海道でも考えて行けるのではないかと提案でした。

「しりべしiシステム事業スタッフ研修会」報告

研修会開催月を満1年として「しりべしiネット」のアクセス状況などお知らせしています。2014年11月～2015年10月までのアクセスは311,821（前年267,980）と朝ドラ人気も有って嬉しいアクセスupです。地域だより投稿は「小樽だより」が小樽iセンタースタッフの投稿の頑張り（投稿数：362）もあって、112,925と断とつトップです。（先日、研修会での発表資料を持参しお礼に行ってきました！）投稿順位は次いで、道路情報（101）、真狩村（87）、岩内町（50）、積丹町（40）、余市町（35）、蘭越町（32）と続き、アクセス上位は小樽に次いで真狩村、岩内町、道路情報、蘭越町、赤井川村、積丹町、余市町となっています。

後半では、北海道開発局小樽開発建設部より管内各所で行われている道路工事の理由、利便性向上などの説明などが行われました。詳細資料も配布されましたのでご希望の方は連絡ください。

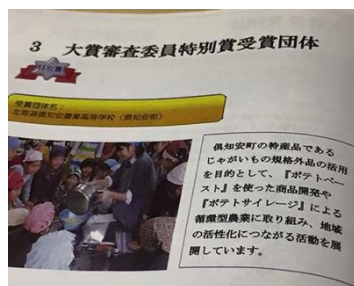
講堂での全ての予定終了後の18時から倶知安町内の飲食店にて交流会を開催いたしました。(写真が無くてすいません。忘れてしまいました)「地域の若い方々と話したい!」と後志総合振興局、橋本局長のBIG参加も頂き、参加27名の方々の立場を超えたフレンドリーな交流会となりました。ご多忙中、ご参加頂きました皆様、ありがとうございました!

後志総合振興局「みんなで創る! しりべし絶景マップ フォトコンテスト」審査参加



9月30日振興局にて特賞1件、佳作5件の受賞審査を倶知安で活躍のフォトグラファー渡辺洋一氏、JPO1編集長土居功氏、振興局部長、課長3名と共に「後志の良さが表現されているか?」「景観の美しさが観るものに訴えているか?」「この場所に行ってみたくと思わせるか?」を審査基準として厳正に審査しましたよ~佳作5件については「しりべしiネット・しりべしのいいね!」にて紹介しています。(現在2作品まで紹介済)12/1からは冬バージョンで開催しています。後志特産品5万円と素晴らしい(審査員じゃなく応募したいくらいです~)詳しくは「しりべしiネット・しりべしだより」をご覧頂くようPRをお願いします。

~「わが村は美しくー北海道」運動第7回コンクール表彰式~



地域の農林水産資源を地域の魅力、活性に繋げる活動をしている団体を評価、表彰し応援していこうと2年に一度行われています。この度は大賞3団体、大賞審査委員特別賞2団体、優秀賞14団体、奨励賞30団体となりました。ブロック調査員として参加した後志管内から「倶知安農業高校」が大賞審査委員特別賞を受賞したこともあって、11/30(月)「かでの2.7」で開催された表彰式に参加してきました。

倶知安農高は規格外じゃがいもの活用、循環型農業に取組み、じゃがいものペースト化は既に特許取得も終えており、将来的発展、活用が見込めると高評価されました。大賞受賞団体の報告を聞くと卓越した点がやはりあります。『新篠津・農業観光生産者協議会(新篠津村)』は道の駅内に収穫体験案内施設「畑の案内所」(希望に沿った収穫体験ができる農家を案内)を設置し、収穫体験を通じて、観光客が村内に足を運ぶことによって交流が生まれている。人口3,500人の村に畑の案内所利用者は毎年5,000人となっているようで、協議会に役場やJAに参加してもらっていることが外での信頼も大きいようです。『絵本の里けんぶち VIVA マルシェ』は自ら栽培した農産物を軽トラックに積み、道内外で移動販売を行っている。国内での栽培が困難とされている作物の栽培、日本一のジャガイモ種類栽培など栽培技術の向上や優位性作り(じゃがいも40種類)に励んでいる。『落石地区マリビジョン協議会(根室市)』は地域ブランド「しお風」を作り、首都圏での販促、遊休漁船活用のバードウォッチングやネイチャークルーズ、落石岬フットパスなど将来性を見据え、漁業を生かした取組みを行っている。エントリー打診や調査に参加していると助成も無ないし~と言われますが、コンクールに参加することで刺激や新たなアイデアが生まれる繋がり作りのお手伝いや、他地域のコンクール参加の活動や注目点などの報告機会を作るなども調査側のやるべきことかもしれません。

【編集後記】“観光”では表現しきれない、地域暮らしの雰囲気や価値を味わい求める人々が確実に増えているように思います。うまくすれば住民経済の質の向上もあり得ます。観光資源の切り口ではなく1歩足を踏み入れた街をどう感じるか?というトータルデザイン的に考える時が来たのでは?(i)